



上池袋中央公園が拡張整備されました！ 防災施設（マンホールトイレ、かまどベンチ）設置

＜上池袋昭和町会「緑陰子ども会」への参加＞

上池袋中央公園は、昨年度、区が拡張工事を行い、災害時に活用できる施設が新設されました。

マンホールトイレは、公園の倉庫にあるテントの上に設置して、トイレとして使用できます。水道が使えなくなっても、井戸の水で流せるよう設計されています。

かまどベンチは、ベンチの脚の部分に炊き出しで使えるかまどや鍋が収納されています。

第1地区協議会では、上池袋昭和町会のご厚意により5月11日の「緑陰子ども会」に参加しました。

協議会は、かまどを使ってお米を炊き、おにぎりにして配布しました。また、マンホールトイレやかまどの使用方法を記載したチラシも配布しました。

見学者からは、早くご飯が出来上がる（6合のお米を約10分炊いて10分蒸らし）ことや、燃料が新聞紙2、3日分で良いこと等、簡単で手軽に扱えるのが良いとの声が上がりました。

是非、多くの皆様に防災施設の使用方法を知って頂きたいと思います。



協議会のブース



かまどでご飯を炊く様子

空き家調査について

第1地区協議会では、昨年度に引き続き、地区内4町会のご協力をいただきながら、空き家調査を行っています。

昨年度把握した「空き家と思われる建物」について、今年度は、所有者や敷地状況について調査しています。

本地区では、これまでのところ、空き家と思われる建物であっても、管理不全（著しく危険と感ずる）の建物はありませんでした。

安心できる一方で、狭あい道路に面した狭小敷地の空き家などは、空き家活用の提案が難しく、問題解決への課題と感じています。

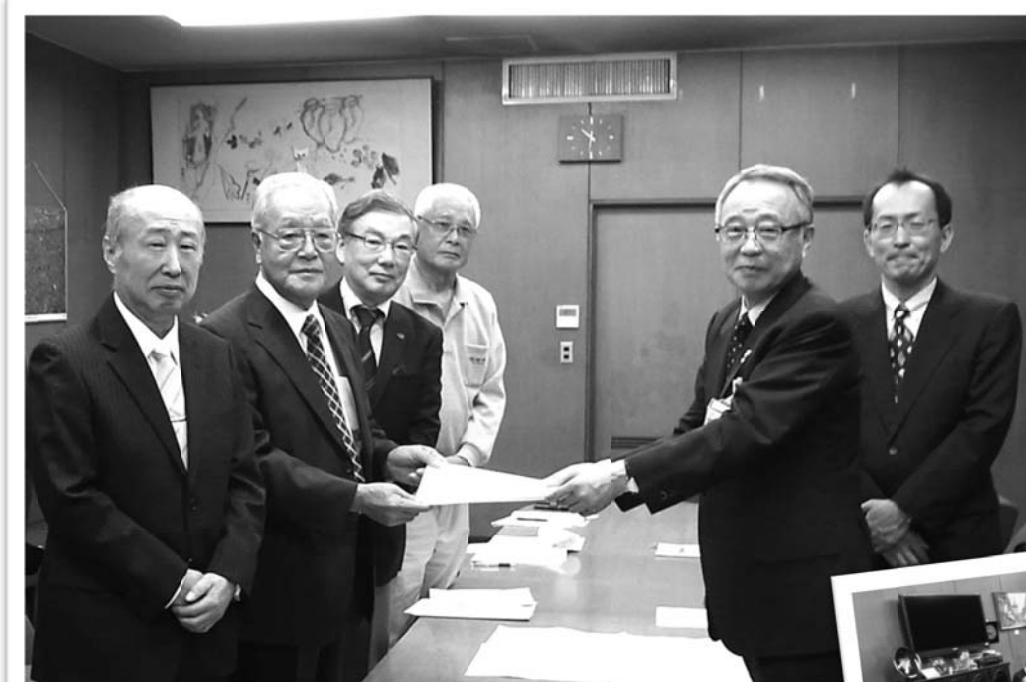
👉ご連絡お待ちしております！

まちづくり協議会ではご参加いただける方を募集しています。詳しくは下記事務局までお問い合わせ下さい。

〒170-8422 東京都豊島区東池袋 2-60-3 グレイスロータリービル 7階

豊島区都市整備部 地域まちづくり課 北部グループ TEL 3981-1464

上池袋地区



左：左から、菅沼稔協議会会長、森澤修一第2地区会長、戸田汎第3地区会長、関口嘉朗第4地区副会長、高野之夫区長、渡邊浩司副区長

下：他出席者一奥島正信地域まちづくり担当部長、藤田力地域まちづくり課課長、鮎川傑木密不燃化担当副参事、他



上池袋第2・3・4地区の まちづくりを区長に提言しました

不燃化特区制度等をいかしたまちづくりの提案

上池袋第2・3・4地区まちづくり協議会（上池袋2・3・4丁目の範囲）は、平成26年10月21日、地区内5町会と共に、豊島区長に対し【まちづくり提言書】を提出しました。

本年4月、本地区は東京都による「木密地域不燃化10年プロジェクト」の「不燃化特区」に指定されました。また、プロジェクトの一環として補助82号線の整備が予定されています。

区では「まちづくり懇談会」を実施し、地域住民の意見を把握しながらまちづくりルールを決定するとしています。

そこで、協議会では、これまでの活動に

よる知見を踏まえて、『災害に強く、安全で快適に住み続けられるまち』となるように、町会等の意見を反映しながら、まちづくりルール等の提言を提出しました。

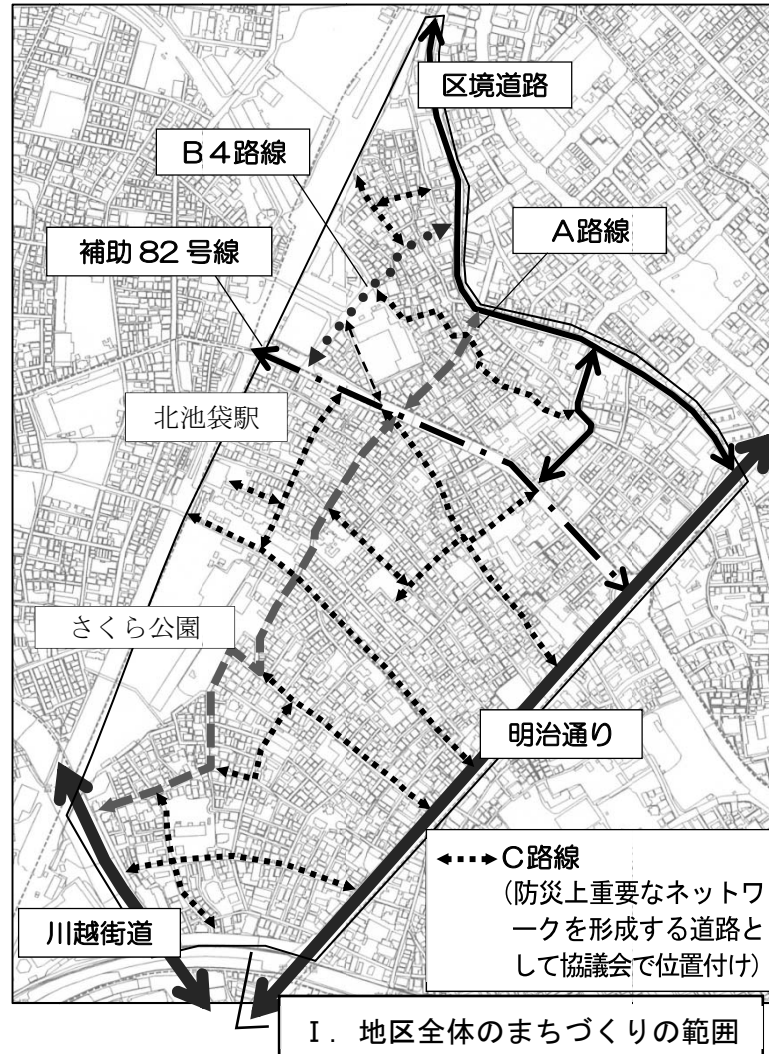
高野区長からは、「長年の活動をいかして、幅広いまちづくりへの提言を頂きました。これらを踏まえて個別に内容を検討し、皆さんと一緒に進めていきます。」との回答がありました。

提言内容は次頁をご覧ください。⇒



Ⅰ. 地区全体のまちづくり

上池袋 2～4 丁目の範囲 (下図) について、まちづくりを加速化させるための提言をしました。



1. まちの目標と方針

災害に強く、安心・快適に住み続けられるまちづくり
 (①防災性の向上、②潤い・魅力あるまち、
 ③地域に根差した多様なつながりのあるまち)

2. 土地利用方針

明治通り・川越街道沿道、補助82号線沿道、
 住宅地、各地域にふさわしい市街地の整備

3. 防災上重要な道路ネットワーク整備に向けて

(左図参照) 沿道権利者に対する建替え支援策
 の検討、働きかけをし、優先的に整備する

4. 狭あい道路拡幅に向けて

①幅員 4m 確保に向けた積極的な働きかけ
 ②接道していない敷地への建替え支援、等

5. 良好な住環境の確保

①宅地細分化の防止
 ②ブロック塀倒壊防止のための垣柵の構造制限

6. その他

①電線地中化 ②空き家対策 ③区施設の活用
 ④堀之内人道橋の代替立体横断施設の早期建設
 ⑤④が竣工するまでの線路横断の安全対策、等

Ⅱ. 補助 82 号線のみちづくり・まちづくり

補助82号線は「特定整備路線」(市街地の延焼を遮断するなど、防災性の向上を図る都施行の都市計画道路)として整備予定であるため、以下を踏まえたみちづくり・沿道のまちづくりが重要と考えています。

1. 防災性能の向上

①延焼遮断帯の確保とその対策
 ②池袋第一小学校とその周辺の防災性の向上

2. 交通面の安全性の確保

①歩行者・自転車の安全な通行
 ②補助82号線の安全な横断

3. 良好な街並みの形成

①沿道にふさわしい街並みの確保 (建物高さ等)
 ②沿道建物の緑化

4. 北池袋駅周辺のまちづくり

①北池袋駅のバリアフリー化 ②駐輪場の設置
 ③北池袋駅に隣接した広場整備の検討

5. まちづくり・みちづくりへの住民参加等

①地元住民との話し合いの場の設置
 ②お茶上がり地蔵、上池袋交番の代替地確保

■ 提言書作成の経緯と今後の予定

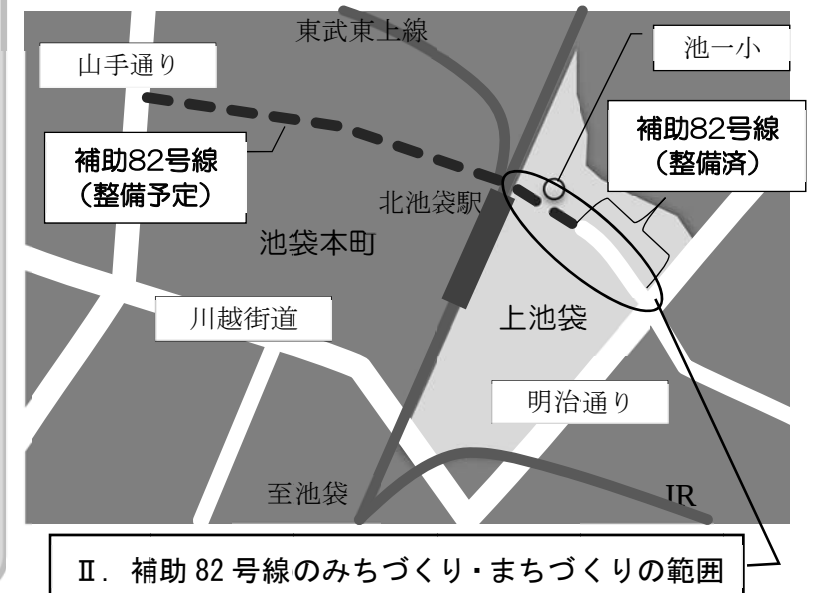
平成 25 年度

- 第1回協議会 (不燃化特区制度等の確認)
- 第2回協議会 (補助82号線まちづくりの検討)

平成 26 年度

- 第3回協議会 (地区全体のまちづくりの検討)
- 第4回協議会 (提言書たたき台の検討)
- 5町会に説明し、提言書案への意向把握
- 第5回協議会 (町会の意向反映の検討)
- 区長提言

- (今後の予定)
 ○区主催第3回まちづくり懇親会 (11/28)
 ○上記懇親会を受けての検討



まちの紹介コーナー



上池袋池八町会
 亀山幸男 町会長

上池袋交番の近くにある「お茶上がり地蔵」には悲しいおはなしがあります。この地蔵尊を管理して大切に守っている上池袋池八町会の亀山会長から、そのおはなしを伺いました。

今から約300年前、江戸時代のこの辺りに住む勘左エ門という男がいて、おせんという板橋宿で働く女と夫婦の約束をしていました。ところが、勘左エ門の両親に結婚を反対され、おせんは悲しみのあまりに病となり、板橋宿を出て

～お茶上がり地蔵のおはなし～

さまよい、谷端川のほとりまで来て、ついに力尽き草むらで亡くなってしまいました。

それからというもの、そのあたりには、夜ごと女の姿が現れ、「お茶上がり、お茶上がり」と悲しい声で訴えたと言います。そこで村人が骨を拾い供養塔を建て、その霊をなぐさめることになりました。

実は、この供養塔は当初、交番の先約40mのところにありましたが、昭和16年の道路整備の時に、移転場所が無いため埋めることになりま

した。しかし、現場監督が毎晩悪夢にうなされ、怪我人が続出し、いよいよ埋める当日には土が大きく崩れたため、全員逃げ帰ってしまいました。そこで、皆で協議し、荒井安久太郎氏の発意で塔を所有地(現在地)に移し、近隣の石工から地蔵尊を乞い受け、塔とともに祀りました。

その後、近所で亡くなった無縁の人も合祀し、今年に一度供養されています。上池袋のひとの優しさを感じられるおはなしでもあります。

